九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[06_01]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/1468012

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 6 (1), 1973-02-20. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

プログラム相談員制度についてのアンケート結果報告

昭和47年10月にプログラム相談員制度について，アンケート調査を行ないました．これは時間的，距離的に相談員になることができるということで九州大学の利用者および九州大学に近い学外の利用者を対象としました．ここにその結果を報告します．（アンケート〆切　10月31日）

なお，お寄せいただいたご意見は，今後プログラム相談員制度を続けて行く上で，参考にさせていただきたいと思います．ご協力ありがとうございました．

発送数　450

回答数　83　（九州大学　75　，　九州大学以外　8）

身　分

教授	6
助教授	19
講師	13
助手	24
大学院学生	18
その他	3

プログラム相談を利用したことがありますか

ある	72
ない	10

プログラム相談員制度は必要と思いますか

思う	79
思わない	2

これまでに相談員の経験がありますか

ある	6
ない	75

今後相談員になっていただけますか

なる	16
ならない	60

プログラム相談員制度が必要と思う方は，相談員が定数に満たない場合，どのようにしたらよいと思いますか．（解答に重複したものもあり，この項は延べ数となっています）

参加できる人数でやれる範囲で行なう　50

毎日午前中　13

毎日午後　19

1日おきに1日中　4

週に2日間　8

その他

○ 参加できる人の都合のつく時間．ただし，必要数確保の努力はすべきである．相談員の所へ出掛けて行く．電話でも可にする．

○ 学内の利用者と学外からの出張利用者とに分けるとよい．前者は現在より少なくしてよい．後者の人のためには毎日であろう．

○ 現行時間で担当者1名．ただし，相談員の手におえない場合にはセンター職員に連絡できるようにしておく．

必要数確保すべき　35

利用者の割合いに応じて部局へ割当てる　13

その他

○ 定員を増して，プログラム相談の正職員をおくべきだ．

○ メリットを増す．それに合うだけの礼金を払う．

○ 登録時にゆるい義務的な条件として，ある年数以上の利用経験者に順番に相談員になってもらう．

○ これまではＰＲが不足していたと思う．今回のような方法などの十分なＰＲにより協力を呼びかければ応ずるような人はかなりいると思う．必要に応じては man to man の呼びかけも．

プログラム相談を利用しての感想は

○ 親切であった，親切な人は非常にうれしく感じた.(人によっては異なることもあるが)

○ 大変役に立った．感謝しています．利用してよかったと思った．疑問が解けて助かった．

○ 便利である．

○ 比較的明確な回答が得られた．一応目的を達することができる．

○ 難病を医者が治してくれたときを思ってください．涙が出てくるほど感謝することがあり，その時は相談員が神様のように思える．

○ もう少しくわしく教えていただいたらと思ったことなどがあります．

○ ALGOL の相談員が少ない．

○ あまり親切ではなかったが当然のことかも知れない．

○ 簡単なことを聞きに行った時，不親切だった．初心者にはささいなことでもわからないこ

とがあるので，もっと親切にしてほしい．

○　順番がまわってくるまでの待ち時間が長かった．

ジョブ種別と同様に種別分けはできませんか．

“簡単な質問だけの方は，たとえ他人の相談中であってもその旨申し出てください”と，はり紙でもしたらどうでしょう．

○　相談員のレベルによっては時間のロスだけのことがあり，はがゆく感ずることがある．

○　有効であったと同時にほとんどの場合，今少し入念にチェックすれば見つけることのできたミスが多い．換言すれば，プログラム相談員制度があるからこそ安易に問題を持ち込みすぎることになる．

○　大学院の諸君が数人で相談しながら熱心に相談を受けていられるのは好感がもたれた．

○　相談員不在の場合が多く，ライブラリの完備が望まれた．

○　利用以前は1つのプログラムに数日かかっていたが，相談すると2，3分で解決し，はやくから利用すればよかったと思った．

○　相談員の方はたいへんだろうと思った．

○　エラーについて自分ではなかなか気付かないので，随分助かっています．

○　一般プログラミング以外（たとえば MT や File）になると特定の相談員しかわからないのが難点．

プログラム相談を利用しない理由は

○　他人に依頼しているから．

○　身近に相談相手がいる．

○　高度の知識を必要としないし，エラーが大体自分でわかる．

○　これまでは解説書を読む程度で支障なく計算できた．

○　まだ本格的な計算をやっていない．

○　このところ新しいプログラムを作る必要がなかったため．

○　経験が浅いので，これから相談の必要が生じると思われる．

○　特に必要がなかった．

○　結局，自分で使用するものは，自分で理解し開発すべきであろう．

プログラム相談を必要と思う理由は

○　初中級者にとって（特に初心者には）必要である．

講習会だけでは理解が不十分なので，それを補うためにも必要である．

高等なプログラムを組める人のためにはそれほど必要でないだろう．

○　解説編や利用の手引では実際によくわからない点が多いので必要だと思う．

○ ひとりで考えるとわからなかったり，同じ誤りを繰り返したりすることが多いし，また時間もかかるから相談相手が必要である．（たとえ経験を積んだ人であってもこのことは言えると思う．）

○ たとえわずかな不明確な個所でも手短かに，気軽に相談できる窓口があると，センターの便利さに格段の差ができる．

○ ミスが少なくなり，それだけジョブの回数が減り，むだなく有効な計算ができる．

○ 必要なのはあたりまえ．

○ 大学の中のセンターはセンターとして独立したものではなく，大学人と相互関係を持つべきものであり，プログラム相談は利用者とセンターとの意見交換の場となるものであるから．

○ 相談員の助言は他大学の計算センターと異なる，たとえば，コントロールカードや，システムの違いによる混乱または不明な点を簡単に解決してくれる．

○ face to face の相談が習得への一番の近道であるから．

○ プログラム相談員は，むしろ，計算機利用者やプログラミング経験者の少ない地方大学や公共研究機関の人にが必要なのではないか．

プログラム相談員を必要と思わない理由は

○ 完全に必要がないのではなく，週に1日ぐらいセンターの職員で相談に応じる程度でよい．

○ 研究室や学科に数名はプログラム相談に応じることのできる人がいると思うから，センターに常に確保しておく必要はなかろう．

相談員になった場合，センターにどのようなことを希望しますか．

○ レベルアップがひんぱんに行なわれると困ることも多いので，レベルアップの回数を少なくしてほしい．

○ マニュアル類の抜本的な改善．解説編その他もっと適確なものができれば相談の方もやり易くなるのではないか．

○ 相談員の研修を充分に行なう．研究会の充実．計算機のオペレートからはじめて，一貫したシステムの勉強ができるような特権が与えられればと思う．

○ センター職員との相互の親睦．

○ プログラム経験年数が少ないので，その点を考慮してほしい．

○ 利用者にとって直接のメリット（たとえばジョブ優先など）がよい．

○ 非常勤講師とする．

相談員になりたくないと思われるその理由は

○ 経験や知識が不足しているのでやれる自信がない.

○ 初心者なのでむしろまだ相談を持ちかける方である.

○ プログラミング経験にかたよりがあり，数値計算的なことは全然やっていないから.

○ 時間的余裕がない.

実験をやっているので時間的に無理である.

時間を拘束され，仕事の時間が裂れてしまうという心配がある.

センター外の部局の職員が相談員になることはほとんど不可能なのではないか.

○ 経験や知識の深い人や，研究室の人員に余裕のある所を捜してたのむようにしたらよいのではないか.

○ 距離的に無理（九州大学以外の人の場合）

○ 外国人でことばがうまくしゃべれない.

○ 高度な技術を必要としていないから.

○ 職務上無理．教室，学部の現状から考えて時間の都合がつかない.

○ センター相談室へ出て行くことは時間的に無理.

自分の都合のいい時に，自分の所へ来てくれれば相談に応じることはできるし，今もやっている.

○ 相談員を引受ける程の知識はないが，データ収集，統計的解析手法に対する一般的なコンサルタントならできます.

○ 相談員にはならないが，相談員を推薦する.

将来の相談員制度についてどのようにお考えですか

○ 利用者の善意にたよるのでなく，センターの定員を増し，業務の一環として，専門の正職員を置いて行なうべきである.

○ センター職員が何らかの形で相談にのらざるを得ないと思う.

○ 利用者の間でこれといった組織がないので，やはりセンターの方で音頭をとってやっていくより仕方がないだろう.

○ 相談員は利用者の立場からいえば必要である．しかし，制度として必要かどうかはわからない．これからはプログラミング経験者が増加するので，初心者はその人を通じて学べばよく，さらに高度なプログラム相談が要求されることになるであろう．とすれば，センターの専門家によってやった方がよいのではないか.

○ センター開発部門の充実をはかり，センターで責任ある相談員を養成する必要がある.

相談員（センター属）自身がもっと経験をつむ必要がある.

○ 全利用者のうち，有資格者または講習会受講者に対し義務制とする．

○ 一定年限以上のプログラム経験者で，センターへ課題登録した人は原則として相談員となる義務を負う．ただし，特別の支障者は除く．また，任期ももっと短かくして多くの人で分担するようにしたらどうか．

○ ぜひ必要であるが自分はしたくないというふうに大半の人は感じているのではないか．
従って，教室単位で時間，場所を定めずに自由に行なえるようにしたらよい．

○ 大学院学生の協力を得る方法を考える．謝金や経験者とのペアーを考慮するとよりやり易いのではないだろうか．

○ プログラムを覚えたては面白いものです．初心者で勉強したい人を１つのグループとして研究講座をもち，その受講者が相談員となることにすれば若い人が集まるでしょう．初心者でもよいことをＰＲする必要があるでしょう．それと同時に，実力ある相談員のグループを作るとうまく運営できると思います．

○ 相談員制度が ① センターのサービス部門であるか．
② 利用者相互の助け合い部門であるか．
によって異なってくる．

①の場合 人員が足らなければ，利用者の内から雇用する．その時は非常勤講師なみの待遇にすべきだ．

②の場合 利用者自身がやりたくないのならどうにも仕方がない．

現実は①と②の中間であり，これからも現在のような制度を残さざるをえないであろうからできるだけ特典を up して，利用者にＰＲする以外はないのではないか．なお，利用者に対しては，自分のプログラムは自分で調べて解決するという独立自尊の精神をうえつけるべきであり，そのための資料（デバッグの手引など）を充分にそろえるべきである．

○ さしあたっては，相談員は利用者と一緒になって考える相手というＰＲを強め，大学院生などが気軽に相談員になるような雰囲気作りを続けたらどうか．

○ ひとまず参加できる人数に縮少して，利用者から不便の声が出たら，ではどうやればよいかと逆に問いかけてみるという一種のショック療法はどうか．

○ “相談予約制”にしたらどうか．
利用者は前もって相談事項を依頼カードに記入しておき，後日，相談員の指定した時間に指定した場所に相談に行く．ただし，相談には親切に応じること．こうすると，それまで待つのはたまらぬと自分で考えるようになるのではないか．

○ 大いに育てるべき制度です．

○ 専門をいろいろ分けておくべきだ

○ 利用者の意見や苦情の聞き役，はじめて計算機に接しようとする人達の指導など巾広い役割を演ずる方向にしたらどうかと思う．

○ プログラムを作ってくれる機関がほしい．その際実費を徴収されてもよい．

○　センター職員または西利協等の専従機関とし，１つの職種と考える．相談員のいない計算機センターはとても考えられない．

これまでのプログラム相談は，利用者相互の技術のレベルアップや効率のよい上手な計算機の使い方の研究，さらに，センターと利用者との意見交換の場としても重要な役割を果してきたと思っています．これから先もこの制度を続け発展させていくために，現実の問類点をどう解決していくか広く利用者の方々にご意見を伺いましたが，その中で“相談員制度のあり方について”の皆様のご意見を大別すると次のようになると思われます．

1．これから先，計算機利用経験者が増し，より高度な専門化された人材が必要とされるであろうし，センター業務の一環として行なえるように，定員増加をすべきである．

2．特別な支障がない限り課題登録者に義務づける．

3．プログラム相談員制度が，センターと利用者の協力のもとに成り立つものであるとしても，実際にはセンターで音頭をとりながら，利用者に協力を呼びかけ，ＰＲしていく．

これらについて実情を説明しますと，まず，1.についてですが，専門のプログラム相談員確保のためにセンターの定員増加をはかるということは，ご存知のように公務員定員削減の現状と，併せて，関係者の努力にも拘らず，センター内各掛において人手不足が深刻な問題になっている今の状態では，プログラム相談員確保の問題は極めて困難と思われます．このような状態ですから現有勢力の中からプログラム相談専門の人を確保するということも不可能な状態です．2.の特別な支障のない限り課題登録者に義務づけるというご意見も，アンケート中の“相談員になりたくない理由„というのが“特別な支障„になってしまって実際上は非常に困難と思われます．

これまでセンターが行なってきました相談員募集の方法は3.の利用者に協力を呼びかける方法です．相談員を経験したことのある利用者，よくプログラム相談や質問に来られる利用者を対象に協力をお願いしてきました．しかし，これではどうしても対象範囲が狭くなってしまいます．

今回のアンケートの結果で95％以上の方が今後もプログラム相談は必要だと考えておられますので，この制度は続けることが必要でしょう．しかし，プログラム相談が必要であるといいながら，それではプログラム相談員になるかという質問にはＯＫの方は極めて少なく（アンケートでは83名中16名で20％弱ですが，相談員対象者からみれば３％強），大部分の方がプログラム相談員にはなりたくないというご意見です．その理由は実力がないので自信がない，時間の余裕がないということに尽きると思います．アンケート結果は，前者が80％後者が20％といったところでしょうか．従って，相談の方法，ペアの組み方などを考慮することによって，かなりの利用者の方に相談員としてご協力頂けるのではないでしょうか．

そこで今後の相談員をお願いする方法として，従来通りセンター側で相談員確保の努力は続ける一方，広く利用者の方から公募したいと思います．

計算センターを大学人の，殊に研究者のためのものにするという意味からも，大学の中の計算センターのプログラム相談というのは，センター業務の一環としてではなく，センターと利用者との相互の協力のもとにやっていくべきものではないでしょうか．

プログラム相談は，高度な質問に応じ，誤りを解決してくれるところではなく，共に考え，自分では気付かない感違いなどを見つけたり，意見交換をしたりする場所ですので，相談員になることに不安感をいだかずに気軽に参加できる雰囲気にし，経験豊かな人はそれを生かし，初心者で勉強したい人は一緒に考えることにより経験や知識を深めてゆく，このようにして，相談員経験者を数多く作りたいと思っています．このようにしていくことによって利用者の意見の聞き役，はじめて計算機に接しようとする人達の指導など，これから先も巾広い役割を果して行けると思います．皆様方のご協力をお願いいたします．

なお，相談員の方には現在次のような便宜をはかっています．

1．指導用計算機使用時間　120分程度提供．

2．基本的なマニュアルその他希望のマニュアル，資料などの配布．

3．相談員研修会への参加と資料の配布

4．相談員研究連絡会への参加と資料の配布

簡単に内容を説明しますと，1.は相談員用課題番号を用いて指導用に計算機を使用して頂くわけです．2.は改訂版のマニュアルのうち FORTRAN, ALGOL に関するものの配布と，希望されたマニュアル，資料などを配布しています．3.の相談員研修会では，現在および将来のシステムについての説明，計算機一般の話し，見学などの他，自分のジョブをカードリーダーから読み込ませて実際の処理をして頂く計算機の OPEN 使用などを行ないます．4.の相談員研究連絡会は相談員に限らず，利用者ならどなたでも参加できるものですが（次期相談員候補として），相談した内容のうち有益なものの紹介や相談するにあたって必要な各種の連絡事項，その他相互に質疑応答するという会です．

以上4つの便宜をはかっていますが，今後はアンケートに寄せられました皆様方のご要望にも添えるよう努力していきたいと思っています．